

センター夏まつり2013

去る8月24日(土)に、霞ヶ浦水質浄化強調月間(海の日～9月1日)のメインイベント「霞ヶ浦環境科学センター夏まつり2013」を開催しました。

前日夕方から雨が降りはじめ開催が危惧されましたが、当日は天候も回復し、県内外から4,200名のお客様にご来場いただきました。

内容は、環境保全団体等による出展・センター研究室の一般開放・クイズラリー・投網体験教室などお馴染みのイベントに加え、ユルキャラ(つちまるくん、ひぬ丸くん)撮影会なども行われ大変な盛り上がりを見せました。さらに、多目的ホールでは、土浦市下水道促進コンクール表彰式や県内の環境保全に取り組む団体によるポスターセッション「環境活動交流ひろば」も開催され、水質浄化に係る意識高揚に寄与したものとします。

また、昨年に引き続きパートナーブースが出展されました。屋外でのテント出展という大変過酷な状況でしたが、多くの方にご来場いただき大変盛況であったと伺っております。

なお、当日の運営にあたっては、パートナー各位のご協力を得て、センター夏まつり2013は大盛況のうちに終わることができました。この場を借りてお礼申し上げます。

(センター：山中)



おもしろ科学教室



クイズラリー



投網教室



研究室一般公開



パートナーブース



ユルキャラ撮影会

沖宿の昔を紐解こう

イベント・記録グループの自主活動として当センターの所在地である、土浦市沖宿町の昔を知ろうと、8月10日地元の長老を当センターにお招きし、座談会形式で約2時間お話を伺いました。

主な話題のトピックスを要約しますと



- ・レンコンについて

今でこそ 日本有数の産地ですが レンコンの栽培には多くの水を必要とするため 湖岸地域の湿地帯や谷津田などで昭和40年頃より稲作からレンコンに変わったとのこと。また湖岸のレンコンは水が軟水のため根茎が白く仕上がり商品価値も高くなっています。

- ・沖宿港と沖宿町について

昭和30年頃までの沖宿港は霞ヶ浦の漁港として水揚げも多く、また町の中心部は沖宿銀座と呼ばれ網元が3軒もあつたり、パチンコ屋もあり大変にぎやかな町であつたとのこと。

- ・その他

長老の子供時代の遊びや暮らしぶりや、土浦までの交通は船が主役、地域に残る「馬頭観音」のいわれ、農作業の用具、肥料などのお話を伺いました。

(イベント・記録 Gr : 目次)

センター夏まつり2013に参加して

今年の夏まつりも、パートナー企画部会の実行委員(4名)となり、事前の準備、当日のパートナーブースの担当として参加しました。昨夜来の雨も上がり、早朝、茨城放送で開催を確認、スタッフ駐車場の一番のバスに乗るべく、家を出ました。

尾形氏以下4名ともバスに乗車、7時15分センター到着、すぐに芝生の上のブースに、栗原氏のメモを基に、各種パネル、器材、装飾品、景品などを運び込み、設営作業に取り掛かり、8時30分ごろ飾り付けもやっと終わり、他グループの展示コーナーに先駆けてパートナーブースが一足先に完成しました。

10時受付開始、平江氏と呼び込みを始めました。当初、お客の出足はセンター館内が中心で、芝生の展示場には、10時半ごろより、パートナークイズに参加される大人に続いて、やっと子供たちも暑い日差しの中、次々とブースの中に入ってきました。

粘土細工は、特に幼児から小学生低学年に人気があり、何人かの女兒は、額から汗を流しながら、お母さんに何度も促されても動こうともせず、熱心に動物作りに手を動かしていました。高学年になると、4色の粘土を混ぜて、別の色を作りだすことに興味があるようでした。

ブース来場者は、午前中は大人77名、子供23名で、100名でした。大人は開始早々から、クイズの内容から、パートナー活動の内容を理解してもらえたと思っています。景品を渡す時にも、活動内容の補足説明をしました。

午後はますます日差しも強くなり、ブース内の机の位置を変えて、日陰の中に移動して対応しましたが、大人24名、子供28名の50名でした。

炎天下の日差しの中、屋外展示はクーラーの効いた館内と違い、他グループの展示コーナーの景品目当てと昼食時のお弁当コーナー以外は、客足は思いのほかと思いました。

結局、合計150名のブース来場者でしたが、途中から応援いただいたパートナー：山中氏と実行委員4名とともに、真夏の猛暑日の屋外ブースで、熱中症にもならず無事終了することができました。

関係者の皆様、暑さの中本当にお疲れ様でした。

(パートナー：西條)

平成25年度パートナー霞ヶ浦クリーン Up 活動 中間報告

平成23年度から新規プロジェクトとして、「パートナー霞ヶ浦クリーン Up 活動」を企画・実施し3年目に入りましたが、活動もすっかり定着し、成果も着実に実を結びつつあり、参加者一同の励みになっております。今回は、中間報告として平成25年4月から8月までの活動について報告を致します。

活動の主旨は、環境保全の観点からパートナーが関わる霞ヶ浦の浄化啓蒙活動の一環として、霞ヶ浦湖岸の清掃活動をセンターの支援を得ながら自主活動と位置付け、地域や社会に見える形で貢献できればと考え、企画・実施しております。

活動の最終的な目標としては、地道で継続的な活動を通じ、貴重な自然の財産をこれ以上壊すことなく、少しでも将来に引継いでいければと考えております。

活動は、センター下の霞ヶ浦湖岸2.3Km区間の清掃（ゴミ拾い）を毎月1回の頻度で活動しています。また、できるだけ参加し易いように、平日と土曜日を交互に設定する等の工夫をし、9時から約2時間の活動です。

具体的には、センターから湖岸まで約15分かけて移動し、湖岸で2班に分かれ清掃活動を開始、回収したゴミは、センター職員の協力でセンターまで運んで貰い可燃物、不燃物の仕分けまでを行います。

夏季活動は、湖岸に辿り着くまでに大汗をかき、そして冬季活動は霞ヶ浦からの冷たい風に耐え、四季の移り変わりを肌で感じながら活動しております。

最初は、清掃区域の多種多様なゴミの多さに驚きましたが、3年目を迎え限定的な範囲ではありますが、少しずつ減ってゆくゴミの量にモチベーションも上がり、ゴミ“ゼロ”を目指し、地道に無理なく活動しております。

本年度（4月から8月まで）は5回の実施で、**延べ回収量21袋**（可燃物：12.5袋、不燃物：8.5袋）、**延べ参加人員31名**と多くのパートナーの皆さんのご協力を得ながら、ゴミ“ゼロ”を目指し取り組んでいます。

今年度も引続き活動を推進していきますので、皆様のご協力をお願い致します。

（企画部会：尾形）



「私の細道」(その7)

仏五左衛門

「おくのほそ道」によると、芭蕉らは、元禄2年(1689年)3月30日(陰暦)に日光山麓の仏五左衛門宅に泊まり、翌4月1日に御山(東照宮)に詣拝すとある。「室の八嶋」の次には「仏五左衛門」の章段が設けられており、五左衛門の好意を受けて一夜世話になった事が記載されている。

しかし、実際には、元禄2年には3月30日(陰暦)は存在せず、曾良の旅日記によると、彼らは4月1日に鹿沼を発ち、昼頃に日光東照宮を拝した後、その夜、上鉢石町の五左衛門宅に泊まったとある。これは、文学的観点から、日光山に参詣するに当たって、前日に山麓に宿して心の準備をし、改まった気持ちで東照宮を拝したとの芭蕉の創作であると云われている。それほど、御山(日光山)への畏敬の念を示したかった。その気持ちは、続く「日光」の章段に登場する「あらたうと青葉若葉の日の光」という句に如実に現れている。

私は今年(2013年)4月23日(陰暦では3月14日)の午後、鹿沼から例幣使街道(121号線)の杉並木を通して日光に入った。季節としては芭蕉らの訪問の半月前であり、桜の散り時であった。

日光観光協会で芭蕉ゆかりの地として、下鉢石町の高野忠治氏邸を紹介頂いた。同氏の庭に芭蕉句碑があるという。氏邸は建て込んだ家並の中の普通の一軒家であった。門扉から呼び鈴を押すと、上品な年配の男性が応対して下さった。早速、庭隅の芭蕉句碑を見せて頂いた。高野氏の幕末期の先祖にあたる高野道文の建碑だそうで、芭蕉の真蹟を入手しており、これを碑にして残されたとのことである。幕末当時の朽ちた碑と、新たに作られた碑が並立している。句は「あらたふと木の下闇も日の光」とあり、「おくのほそ道」に残る句とは異なる。碑の側に道文識として、「両句に違いがあり、意味深長。よって、ここに彫付けて諸君の高評を待つ。」と記されている。

実は、曾良の「俳諧書留」の「室の八嶋」の項に「あなたふと木の下暗も日の光」という句が記載されており、これが初案ではないかと云われている。この句が、高野邸に残る句へと推敲され、最終的に「おくのほそ道」掲載句となったのであろう。初案は東照宮を念頭に置いたものではなく、室の八嶋付近の写生句であり、これを下地として東照宮や徳川家の威光を敬う句へと転化したのであると云われている。

高野氏が五左衛門の末裔であるか否かについては、証明するものは残されていないようである。

芭蕉は五左衛門を、無智無分別にして正直偏固、剛毅朴訥、気稟の清質と評している。そして、尤も尊ぶべしと。五左衛門自身も「我が名を仏五左衛門という。万事、正直を旨とする故、人はそう呼ぶ。」と言っている。

当時から東照宮参詣の旅人が多く、鉢石宿には旅籠屋が軒を連ねていたらしい。同時に、路銀のない巡礼や行脚僧の為の無料の宿もあり、「善根宿」と呼ばれていた。五左衛門宅はおそらくこの善根宿であったのだろう。

高野氏は、「ここは下鉢石で、上鉢石ではない。」と言われたが、実直な人柄はまさに五左衛門であると独り合点して、宅を辞した。

高野氏宅から数百歩先に大谷川があり、朱塗りの神橋が掛っている。そこはもう「御山」である。既に4時に近かった。芭蕉ではないが、このまま「御山」に入る時間も心の余裕も無かった。日光東照宮への行は後日とすることにした。



あなたふと木の下暗も日の光	翁	(俳諧書留)
あらたふと木の下闇も日の光	芭蕉桃青	(高野氏所有芭蕉真蹟)
あらたうと青葉若葉の日の光		(おくのほそ道 日光)

(パートナー 小松)

ご近所探訪(9)――土浦城

土浦市観光最大の目玉のひとつといえば、江戸時代後期の遺構を残す土浦城であろう。土浦市街中心部に「亀城公園」として、城郭の主要部分が整備・保存され、広く市民に親しまれている。「土浦城跡および櫓門」は、茨城県指定史跡第一号の文化財（昭和27年指定）でもある。”城ガール”よろしく、改めてその遺構などを巡ってみる。

そもそも、最初に築いたのは誰か？平安時代、ご当地おなじみの平将門伝説があるが、どうもこれは鼻肩の引き倒しのようなもので、確たる文献が残っていないのに対し、室町時代中期の永享年間（1429－1440）、若泉三郎築造説が有力。

若泉氏は関東菅領上杉氏の配下で、すでにあつた中条集落あたりに館を構え、水害対策としての桜川流路変更工事や、今も城と中城を結ぶ「歴史の小道」にある不動院（中条不動院光福寺）の開山として名を成す人物。その後戦国時代には、小田氏や菅谷氏が戦いの拠点とし、江戸時代の歴代藩主へと引き継がれた。慶長9年（1604）、松平信吉が藩主の時代、水戸街道が整備され、城下町の基礎が整えられたとされる。

土浦城は、霞ヶ浦に注ぐ桜川河口の自然堤防上に築かれた平城で、しかも桜川の本流や支流を城郭の濠として巧みに活用した水城でもある。別名「亀城」とも呼ばれたが、その姿が水に浮かぶ亀のように見えたためとされる。大きな石垣などもない掻揚城で、本丸に天守もない。

城の構造としては、本丸、二の丸、三の丸、外丸などからなり、現在、櫓門、霞門、前川口門が現存し、それを囲んで堀、土塁、土橋が残っている。また本丸の土塁上に、東櫓と西櫓が復元されている。同じく本丸土塁上に建つ堀も、堀の構造や瓦、防御施設としての石落としや狭間なども復元され、見ることができる。

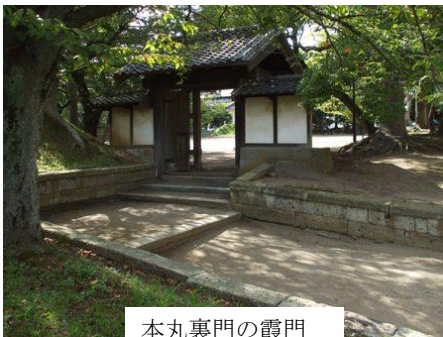
櫓門は、明暦2年（1656）に改築されたとされる本丸正面の門（県指定文化財）。本丸にある櫓門としては関東地方唯一現存する貴重な江戸前期の城郭建築物遺構。別名「太鼓櫓」とも呼ばれ、楼上に太鼓（刻の太鼓、市文化財）を置き、城下に時を知らせた。先年、この太鼓を修復したところ、240年前の明和7年（1770）に江戸浅草で作られた国内3番目の古い太鼓だったことも判明した。



本丸正面の櫓門

霞門は本丸裏門（市指定文化財）で、貞享元年（1684）に構築。二の丸と外丸の間にあるのが旧前川口門（高麗門）で、城の搦手門のあたりから移され、土浦町役場の門や等学寺の山門だったものを移設した（市文化財）。これら三つの門は、郭の遺構も含めて、茨城県内でも他にないくらい江戸時代の城郭の建物や施設がコンパクトに残されているといっても良い。

明治になって土浦城が公園化するにあたって、堀や土塁などは大きく変わってしまったが、城に沿って南北に走る水戸街道を中心とした町並みに、その特長的な「馬出し」の名残を残している。南門跡の角馬出し（枅形）、西門の丸馬出し、北門の重ね馬出しなど。



本丸裏門の霞門

また、少なくとも3カ所の貴重な土塁遺構が、保存されている。（1）旧南門東の東光寺境内（市文化財）、（2）旧西門前神龍寺境内、（3）土浦警察署横浄真寺境内で、規模はまちまちだが土壇や土塁が残されているので、ぜひ見学したい。

最近になって、土浦小学校の校舎改築に伴う記録保存調査で、新たに堀跡や建造物の基礎遺構が発掘された。大手門に近い上級武士の屋敷跡（西郭）だった場所だが、詳細はこれからだ。まだまだ新

しい発見が掘り起こされるのを待って、眠っている。

土浦城跡は、情報も多く、それぞれ説明板も置かれているので、地図を片手にぜひセンチメンタル・ジャーニーを！

（図書G：細谷 浩）

デジタルカメラ（その10）今さら聞けないデジカメ用語集（上）

ここでは「今さら聞けない用語」を初心者にもわかりやすく説明いたします。難しい用語やマニアック用語は除いて、よく使う用語だけを選んであります。

○ AE

AEは「Automatic Exposure」と言っ「自動露出」という意味。カメラ本体が絞りとシャッター速度を周りの明るさに応じて自動的に決めてくれる機能のことをいいます。デジタル一眼では、「プログラムAE」、「シャッター速度優先AE」、「絞り優先AE」の3種類他あります。

○ AF

AFは「Autofocus」の略語です。オートフォーカスとはカメラが自動的にピント合わせをしてくれる機能のことを言います。一般的なカメラでの撮影では、シャッターボタンを半押しにすると、AFが働き、「ピピッ」という音とともにピントが合います。手動でのピントを合わせる方法は「MF」（マニュアルフォーカス）と言います。

○ EV

EVは「Exposure Value」と言っ「露出値」という意味。EVとは撮影する時の明るさのことで、通常はEV0という値です。この数値をプラスに修正すると明るくなり、マイナスにすると暗くなります。

○ ISO感度

ISO感度は（アイエスオー感度、イソ感度）ともいい、もともとはフィルムの規格のことを言います。ISO 200、300、のような数値で表され、数値が高いほど弱い光でも記録できます。デジカメでもこの規格が取り入れられ、数字を大きく設定することで高感度撮影が可能となり、暗い場所でもシャッター速度を速めて撮影することができますが、感度を上げれば上げるほど画質が低下するので、高画質で撮影する場合はわざとISO感度を落としてシャッター速度を遅くして撮影します。

○ RAW

RAWはデジタルカメラの記録ファイルの形式のことです。一般的なデジカメで撮影した写真データは「JPG」という規格で保存されますが、一部のデジカメやデジタル一眼では、設定によりRAW規格で保存することができます。この規格で保存された写真データは専門的な加工が出来るので、より高度な編集や加工が可能となります。初心者向けでないので、一般の人が扱う規格ではありません。

○ UVフィルター

一眼レフカメラのレンズの前に取り付けるフィルターで、屋外で遠くの景色を撮影するときに、紫外線の影響で写真が青みがかかるのを抑えるフィルターのことで

○ 画素数

画素は「Pixel」（ピクセル）と言い、画素数とは画素の数のことをいいます。デジカメでは1000万画素、10メガピクセルといった単位でつかわれます。

画素数にも「有効画素数」、「総画素数」、「記録画素数」と3つの種類があり、デジカメの性能を決めるのは、「有効画素数」です。一般的に画素数が高いほど高性能カメラになりますが、画素数が高い＝高画質とは限りません。

○ 画像ファイル

画像ファイルは、写真をデータとして記録したもので、様々な種類があります。一般的にデジカメなどの写真の適した画像ファイルは「JPG」というファイルで、その他、BMP、GIF、TIFF、RAW、PNGなどと言った種類の画像ファイルがあります。
(パートナー：目次)

「パートナー情報誌 香澄」原稿募集

香澄編集部では「香澄」に掲載する原稿を募集しています。内容は問いません。センターでの活動内容や、趣味などなんでも結構です。原稿はパートナー室のメールボックスに入れていただくか、編集委員に直接お渡しいただいても結構です。
(「パートナー情報誌 香澄」編集部)